

(令和6年11月)

種 類	市況の概要
(青果部の動向) 青 果 全 般	11月の総入荷量は、前年と同様に、天候不順の影響から多くの品目で品質や収量の低下がみられたため、総入荷量は前年同月並みであったが、総取扱金額は、不安定な入荷により、主にキャベツやきゅうり等で品薄高が続き、前年同月比で22%上回った。今後、入荷は徐々に回復傾向となるものの、品薄感から高値基調が見込まれる。 12月は、雑煮大根や葉付みかん、串柿等の年末商材が入荷し、堀川ごぼうや海老いも、干柿の入荷が最盛期を迎える。果実では、早生みかんは徐々に普通みかんに切り替わり、いちご類がクリスマスや年末の需要に向けて増加する。
野 菜	野菜全般の入荷量は前年同月並みであったが、単価は26%上回った。 根菜類の入荷量は前年同月並みであったが、単価は26%上回った。 葉菜類の入荷量は前年同月比で3%下回り、単価は47%上回った。 果菜類の入荷量は前年同月比で8%下回り、単価は44%上回った。 土物類の入荷量は前年同月比で7%上回り、単価は6%下回った。
果 実	果実全般の入荷量は前年同月比で9%上回ったが、単価は4%上回った。 かんきつ類の入荷量は前年同月比で17%下回り、単価は27%上回った。 りんご類の入荷量は前年同月比で13%上回ったが、天候不順による全国的な品薄高の影響で単価は5%上回った。 柿類の入荷量は前年同月比で7%上回ったが、生産資材の経費高の影響から単価は11%上回った。 メロン類の入荷量は前年同月並みであったが、単価は4%下回った。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長だいこん かぶ 西洋にんじん	岩手、千葉、徳島、石川、長崎などから入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、天候不順による不安定な入荷の影響により単価は４７％上回った。 京都を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で４０％下回り、単価は５８％上回った。 北海道を中心に、長崎、中国、青森などからも入荷した。入荷量は前年同月比で３％上回ったが、単価は前年同月並みであった。
【葉菜類】 はくさい キャベツ ほうれんそう レタス	茨城を中心に、長野、滋賀、鹿児島、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１０％上回ったが、天候不順による全国的な品薄高の影響で単価は５４％上回った。 愛知、茨城、群馬、滋賀を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で１０％下回り、天候不順による全国的な品薄高の影響で単価は１１６％上回った。 茨城、京都、福岡、岐阜、和歌山などから入荷した。入荷量は前年同月比で２３％下回り、単価は４７％上回った。 兵庫、徳島、長崎、茨城を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で１８％下回り、単価は６４％上回った。

【果菜類】	
きゅうり	宮崎を中心に、滋賀、高知、佐賀、福岡などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１９％下回り、単価は１１７％上回った。
なす	高知を中心に、岡山、京都などからも入荷した。入荷量は前年同月比で４％下回り、単価は２１％上回った。
とまと	熊本を中心に、福岡、滋賀、北海道、岐阜などからも入荷した。入荷量は前年同月比で４％上回ったが、天候不順による不安定な入荷の影響により単価は４５％上回った。
ピーマン	茨城、宮崎、高知、大分を中心に、韓国などからも入荷した。入荷量は前年同月比で３３％下回り、単価は６４％上回った。
【土物類】	
ばれいしょ (メイクイン含む)	北海道を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で１３％上回ったが、野菜全般の品薄の影響から需要が高く単価は１４％上回った。
たまねぎ	北海道を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で６％上回り、単価は２４％下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
早生みかん	和歌山を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で２６％下回り、単価は３０％上回った。
富士 (サン富士含む)	長野、青森を中心に、岩手などからも入荷した。入荷量は前年同月比で５％下回り、単価は８％上回った。
富有柿	奈良を中心に、福岡などからも入荷した。入荷量は前年同月比で７％下回り、単価は２３％上回った。
アールスメロン	長崎、静岡を中心に、高知、オーストラリアなどからも入荷した。入荷量は前年同月比で３４％下回り、単価は１４％上回った。